

ジャイロ®フロアブル

■種類名：イプフェンカルバゾン・ベンゾピシクロン・ベンゾフェナップ水和剤	
■有効成分：イプフェンカルバゾン	4.5%
ベンゾピシクロン	5.4%
ベンゾフェナップ	14.3%
■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン [第1種]	4.5%
ベンゾピシクロン [第1種]	5.4%
ベンゾフェナップ [第1種]	14.3%

■登録番号：第23978号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：2017.10.11
■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：5年(担い手直送規格は2年)
■包装：500ml×20本、2ℓ×6缶 20ℓ(担い手直送規格)

【特長】

- 有効成分イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑える。
- ベンゾピシクロンとベンゾフェナップを配合し、ホタルイやミズアオイ、コナギ等のSU剤抵抗性雑草に高い効果を示す。
- オモダカ、エゾノサヤヌカグサ、アシカキ等の問題雑草に高い効果を示す。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	イプフェンカルバゾンを含む農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ オモダカ エゾノサヤヌカグサ ヒルムシロ	移植時	500 ml /10a	1回	田植同時 散布機で施用	2回以内	3回以内	2回以内
		移植直後～ ノビエ 2.5葉期 但し、 移植後30日まで			原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機 による滴下			
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期～ ノビエ 2.5葉期 但し、 収穫90日前 まで						

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 使用前によく振ってから使用すること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期までが本剤の散布適期である。
- オモダカは発生の期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。

- 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- 本剤を無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ◆ 滴下に当っては散布装置のノズルを使用しないこと。
 - ◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
 - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
 - ◆ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - ◆ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- 梅雨期等、散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にしてお使いすること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

作成日 2018年02月07日
改訂日 2022年06月14日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ジャイロフロアブル
整理番号 1651-02
供給者の会社名称 北興化学工業株式会社
住所 〒103-8341
東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
担当部門 企画部 環境安全チーム
電話番号 03-3279-5151
FAX番号 03-3279-5195
緊急連絡電話番号 03-3279-5151
推奨用途 農薬(除草剤)
使用上の制限 推奨用途以外の使用はしないこと

2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

健康有害性 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓 血液系 膀胱)
環境有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分1
水生環境有害性 長期(慢性) 区分1
上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 警告
危険有害性情報 H373 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、血液系、膀胱の障害のおそれ
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き
安全対策 ミスト/スプレーを吸入しないこと。(P260)
環境への放出を避けること。(P273)
応急措置 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314)
漏出物を回収すること。(P391)

保管
廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

他の危険有害性 情報なし
重要な徴候及び想定される非常事態の概要 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
化学名又は一般名 イプフェンカルバゾン・ベンゾビスクロン・ベンゾフェナップ水和剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	

1-(2,4-ジクロロフェニル)- 2',4'-ジフルオロ-1,5-ジヒド ロ-N-イソプロピル-5-オキソ-4H- 1,2,4-トリアゾール-4-カルボキ シド (一般名 イプフェンカ ルバゾン)	4.5%	$C_{18}H_{14}Cl_2$ $F_2N_4O_2$	-	8-(3)-1257	212201-70-2
3-(2-クロロ-4-メシルベンゾイ ル)-2-フェニルチオビシクロ [3.2.1] オクタ-2-エン-4-オン (一般名 ベンゾビシク ロン)	5.4%	$C_{22}H_{19}$ ClO_4S_2	-	7-(2)-168	156963-66-5
2-[4-(2,4-ジクロロ-m-トルイ ル)-1,3-ジメチルピラゾール-5- イルオキシ]-4'-メチルアセトフェノ (一般名 ベンゾフェ ナップ)	14.3%	$C_{22}H_{20}$ $Cl_2N_2O_3$	-	8-(2)-1322	82692-44-2
水、界面活性剤等	75.8%	-	-	-	-

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息
させる。

皮膚に付着した場合

気分が悪いときは、医師に連絡する。

多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察、手
当てを受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着
用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄
を続ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症
状

情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

ばく露による二次災害の防止。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状
水

使ってはならない消火剤

火災が周囲に広がるおそれがあるため、直接の棒状
注水を避ける。

火災時の特有の危険有害性
特有の消火方法

火災時に有害ガスが発生するおそれがある。

消火作業は風上から行う。

火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。

周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却
し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動す
る。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物
質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措
置

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用
する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合は、電気掃除機、ほうき等で掃き集める。 火花を発生しない安全な用具を使用する。 大量の場合は、漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて、紙袋又はドラム缶等に回収する。 回収後の少量の残留物は、土砂又はおがくず等に吸収させる。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い

技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。こと。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。

保管

安全な保管条件	涼しい所／換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。
安全な容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置 許容濃度等 設備対策

未設定
取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具	防じんマスク
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	保護服、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体(水和性粘稠懸濁液体)
色	類白色
臭い	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	6.5

動粘性率	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.13 (20℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	直射日光、高温、多湿
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	通常の条件下では生成しない。 加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット(雌) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg
	経皮	ラット(雄) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg
		ラット(雌) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg
皮膚腐食性／皮膚刺激性		皮膚刺激性試験(ウサギ) : 軽度の刺激性
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		眼刺激性試験(ウサギ) : 刺激性なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性		皮膚感作性試験(モルモット) : 陰性
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データなし
誤えん有害性		データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	魚類 : コイ	LC ₅₀ (96h)	670 mg/L
	甲殻類 : オオミジンコ	EC ₅₀ (48h)	6.0 mg/L
	藻類 : 緑藻	ErC ₅₀ (0-72h)	0.49 mg/L
残留性・分解性		データなし	
生体蓄積性		データなし	
土壤中の移動性		データなし	
オゾン層への有害性		データなし	

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	IMOの規定に従う。
	UN No.	3082
	Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.
	Class	9
	Sub Risk	—
	Packing Group	III
	Marine Pollutant	applicable

国内規制	航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
	UN No.	3082
	Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.
	Class	9
	Sub Risk	—
	Packing Group	III
	陸上規制	非該当
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号	3082
	品名	環境有害物質(固体)
	クラス	9
	副次危険	—
	容器等級	III
	海洋汚染物質	該当
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別の安全対策	国連番号	3082
	品名	環境有害物質(固体)
	クラス	9
	副次危険等級	3
緊急時応急措置指針番号		輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
		171

15. 適用法令
- | | |
|-----------------------|--|
| 農薬取締法 | 登録番号 23978号 |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) | 第1種指定化学物質
イブフェンカルバゾン(2023年4月1日以降)
ベンゾビシクロン(2023年4月1日以降)
ベンゾフェナップ(2023年4月1日以降) |
| | 第2種指定化学物質
ベンゾフェナップ(2023年3月31日まで) |
| 船舶安全法 | 有害性物質 |
| 航空法 | その他の有害物質 |

16. その他の情報
- | | | |
|-----------|-------|--------------|
| 記載内容の問合せ先 | 会社名 | 北興化学工業株式会社 |
| | 担当部門 | 企画部 環境安全チーム |
| | 電話番号 | 03-3279-5151 |
| | FAX番号 | 03-3279-5195 |

急性中毒に関する緊急の問合せ先

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る)

中毒110番 一般市民専用電話 (大 阪) 072-727-2499(情報料無料)
365日 24時間対応
(つくば) 029-852-9999(情報料無料)
365日 9~21時対応

医療機関専用有料電話 (大 阪) 072-726-9923(1件2,000円)
365日 24時間対応
(つくば) 029-851-9999(1件2,000円)
365日 9~21時対応

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料 1件につき2,000円を徴収します。

注意事項

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。